

耳鼻咽喉科



1. 耳鼻咽喉科の紹介

耳鼻咽喉科の専門医には、多くの対象疾患に適切に対応する能力が求められます。当教室は、世界初の臨床応用を行った人工中耳、全国的にも症例の多い人工内耳、顔面神経麻痺や音声・嚥下障害、頭頸部癌に対する治療など、高い専門性・先端の技術をもって患者さんに高いQOLをもたらしています。こうした感覚器とコミュニ

ケーションの医学をベースとした新たな感覚機能外科学を臨床展開していく当科のコンセプトは、国内外で高い評価を受けています。また、最先端の診療のみならず、日常臨床において高頻度に遭遇する疾患の治療も積極的に行っており、最適な専門研修の環境が整っています。

2. プログラムの目的と特徴

本プログラムは卒後臨床研修終了医に対し、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会認定専門医の育成を目的とします。原則的に、卒後3年目は大学病院にて、複数の指導医の下で入院患者を受け持ち、耳鼻咽喉科特有の診察法や処置、手術、術後管理、終末期医療を習得します。卒後4年目からは、各地の研修連携施設にて外来、手術、救急医療などの耳鼻咽喉科全般の知識、経験を習得しま

す。卒後6年目は、愛媛大学大学院へ入学し、臨床業務を行いながら研究を行うか、研修連携施設で研修を行います。本プログラムの連携施設における耳科手術の件数は全国でもトップレベルで、各地のがんセンターで経験を積んだ指導医も多く、頭頸部手術の習熟にも最適な環境です。中四国で人気の倉敷中央病院や東京の日本医科大学、神尾記念病院も連携施設となっています。

3. 経験目標

4年間の研修で、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会が定めた研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験します。愛媛大学医学部附属病院および地域の中核病院を担う病院にて3年以上の研修を行い、学会認

定専門医の取得を目標に研鑽を積みます。本プログラムの連携施設はいずれの施設も手術件数が多く、扱う疾患も多彩ですので、症例経験基準の達成は容易です。

4. 指導医と指導体制

教 授	羽藤 直人	耳科、神経耳科
准教授／診療科長	山田 啓之	耳科、神経耳科
講 師	寺岡 正人	耳科、神経耳科
講 師	田中加緒里	口腔、咽喉頭、嚥下
特任講師	三谷 壮平	頭頸部癌
助 教	青石 邦秀	鼻副鼻腔

助 教	西原江里子	耳科、鼻副鼻腔
助 教	木谷 卓史	頭頸部癌
助 教	入船 悠樹	頭頸部癌
助 教	中田 貴大	耳科、神経耳科
助 教	本岡 太心	鼻副鼻腔

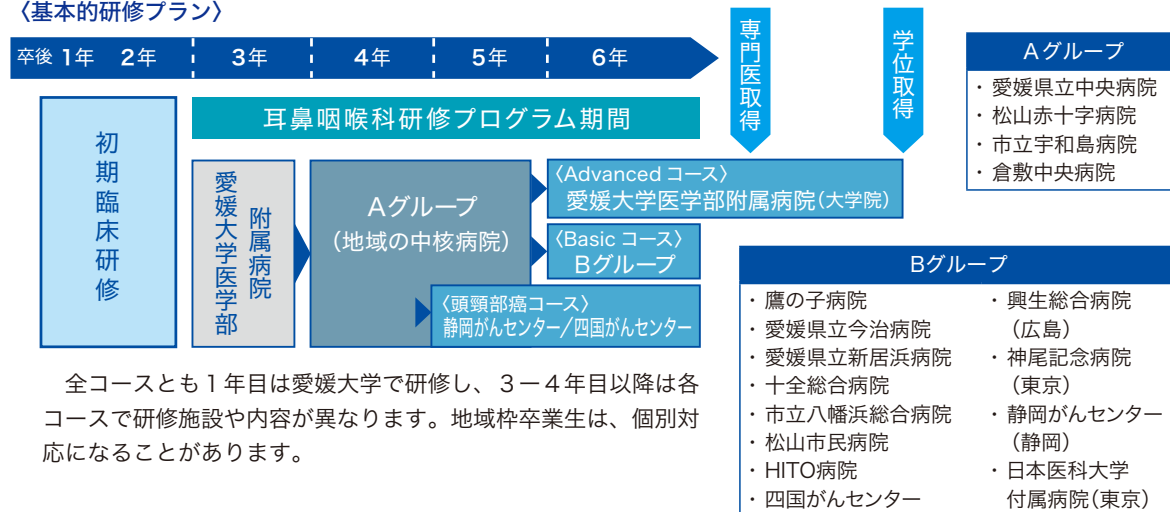
5. 研修に関する行事

	月	火	水	木	金
AM	外来・病棟業務	手 術	外来・病棟業務	外来・病棟業務	手 術
PM	手 術	医局会・抄読会	病棟回診・カンファレンス		

＊月1回 愛媛E N T塾（若手向け勉強会）、愛媛E N T塾junior（専攻医同士の勉強会）

6. 新専門研修プログラム

〈基本的研修プラン〉



7. 専門研修修了後について

当教室の耳鼻咽喉科専門医取得率は100%、学位取得率は78.9%、スタンフォード大学（アメリカ）、カリフォルンスカ研究所（スウェーデン）などの海外留学経験率も高率で、愛媛から世界へはばたくトップランナーの育成

を目指しています。大学病院のみならず、耳・鼻領域のハイボリュームセンターや各地のがんセンターとも連携があり、高度専門臨床医の育成にも力を入れています。

8. 専門研修の問い合わせ先

担当：山田啓之（耳鼻咽喉科頭頸部外科 准教授）

TEL：089-960-5366 E-mail：jibika@m.ehime-u.ac.jp

